

きたきょうづか
山元町 北経塚遺跡

-現地説明会資料-



発掘調査のようす（東から撮影）

平成 21 年 11 月 14 日（土） 午後 1 時 30 分～

山元町教育委員会

1. 調査要項

遺跡名：^{きたきょうづか}北経塚遺跡（遺跡登録番号 14010）

所在地：^{わたりぐんやまもとちょうこだいらあざきた}亶理郡山元町小平字北

調査原因：店舗開発工事

調査主体：山元町教育委員会

調査担当：山元町教育委員会生涯学習課 山田 隆博

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課 村上 裕次 山口 淳

調査期間：平成 21 年 9 月 14 日～平成 21 年 11 月末（予定）

調査面積：約 3,100 m²

2. 遺跡の概要と調査成果

^{きたきょうづかいせき}北経塚遺跡は、常磐自動車道山元 IC 西側の国道 6 号線沿いに位置する^{じょうもんじだい}縄文時代～江戸時代にかけての遺跡です。本遺跡は、平成 15 年度に常磐自動車道アクセス道路一般県道半田山下線の道路改築の際に山元町教育委員会が主体となり発掘調査を実施しており、今回は 2 次調査になります。

第 1 次調査（平成 15 年度の調査）では、^{じょうもんじだいぜんきしよとう}縄文時代前期初頭（今から 6000 年くらい前）の^{どこう}土坑（穴の跡）7 基・^{みぞあと}溝跡 1 条・^{いぶつほうがんそう}遺物包含層（ゴミ捨て場）などが発見されました。

今回の調査（2 次調査）は、遺跡の範囲内での店舗開発工事に伴うもので、開発により遺跡が壊されてしまう範囲の発掘調査を実施しています。現在のところ、^{じゆうきよ}縄文時代の住居^{あと}跡・^{いぶつほうがんそう}遺物包含層（ゴミ捨て場）、^{こふんじだい}古墳時代の古墳周溝、^{こふんしゅうこう}鎌倉時代～江戸時代と思われる^{たてももの}建物^{あと}跡・井戸跡などが発見されています。

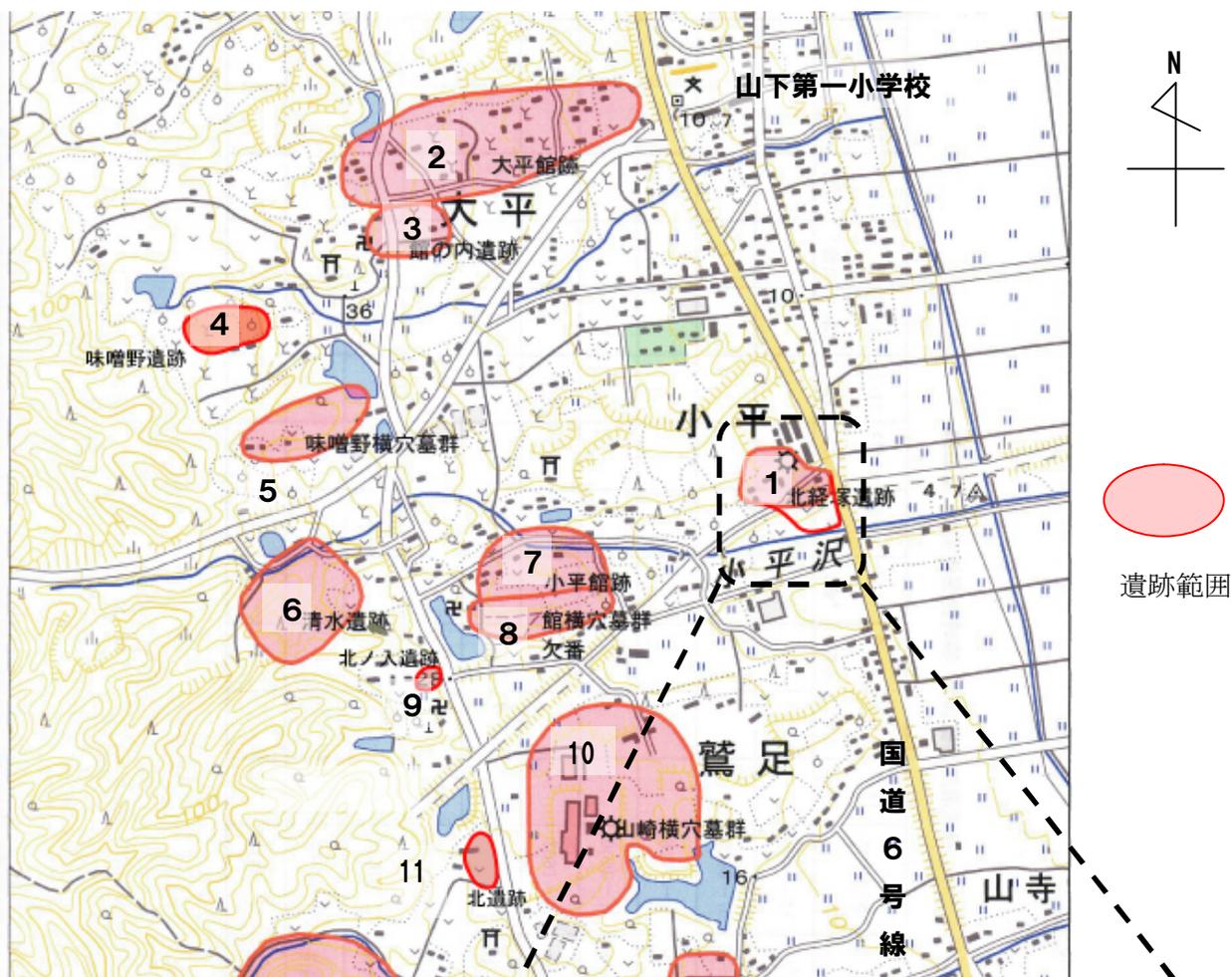


↑平成 15 年度の発掘調査のようす（西から撮影）



↑平成 15 年度調査で出土した縄文土器

3. 北経塚遺跡の位置と発掘調査箇所



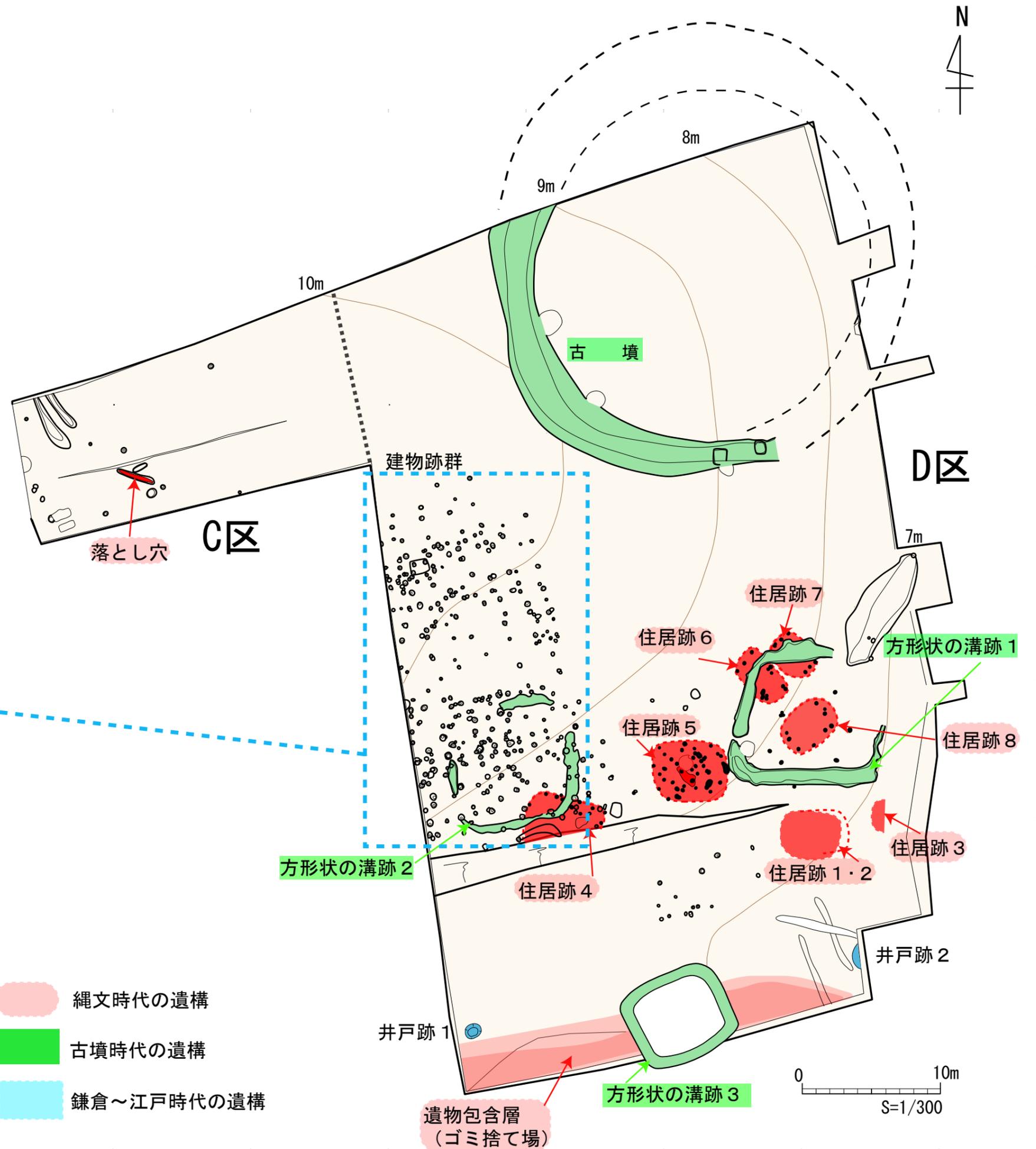
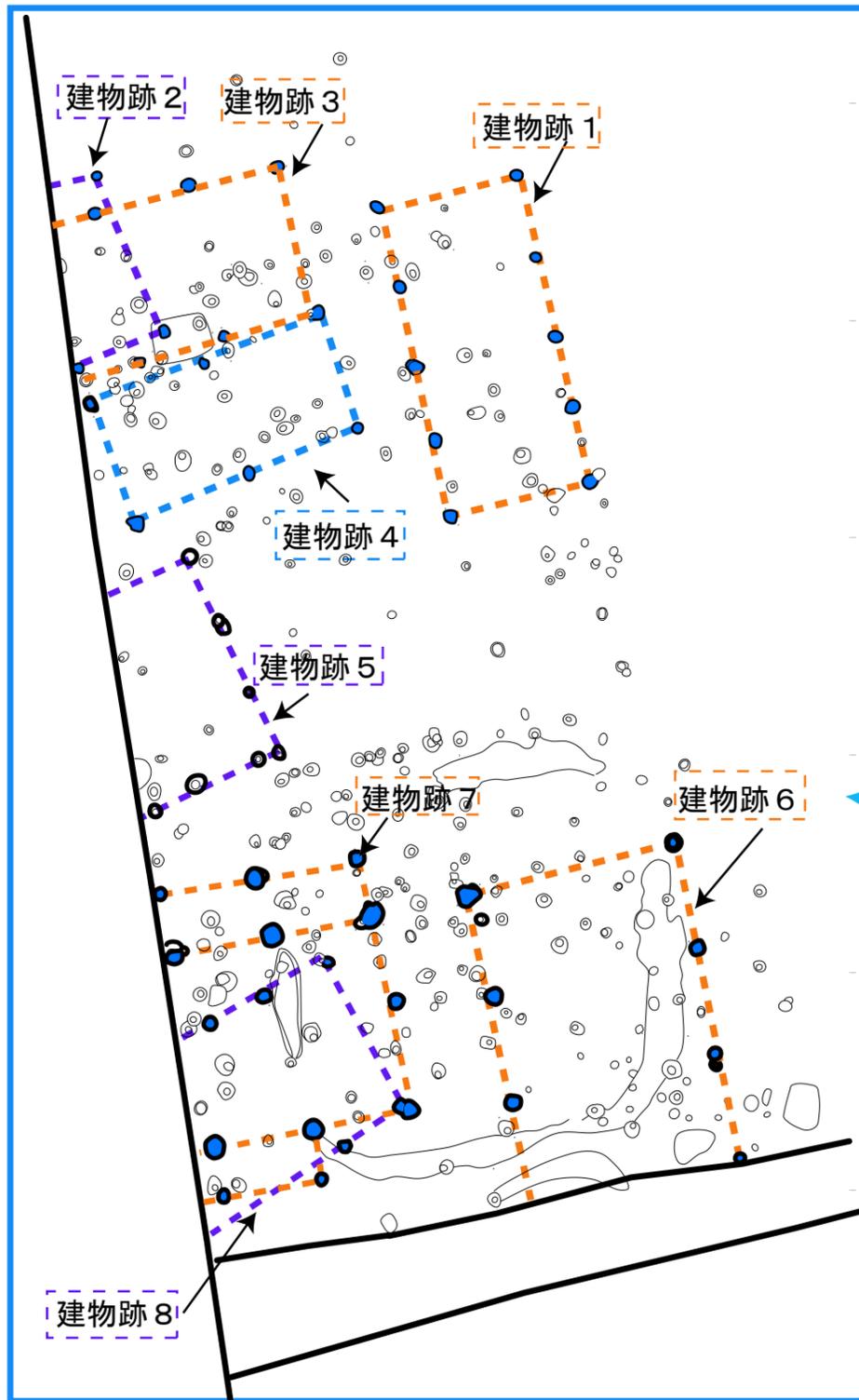
北経塚遺跡の位置と周辺の遺跡

| | 遺跡名 | 時代 |
|----|---------|-------|
| 1 | 北経塚遺跡 | 縄文～江戸 |
| 2 | 大平館跡 | 鎌倉～戦国 |
| 3 | 館の内遺跡 | 奈良・平安 |
| 4 | 味噌野遺跡 | 古墳後 |
| 5 | 味噌野横穴墓群 | 古墳後 |
| 6 | 清水遺跡 | 弥生 |
| 7 | 小平館跡 | 鎌倉～戦国 |
| 8 | 館横穴墓群 | 古墳後 |
| 9 | 北ノ入遺跡 | 奈良・平安 |
| 10 | 山崎横穴墓群 | 古墳後 |
| 11 | 北遺跡 | 奈良・平安 |



4. 北経塚遺跡(2次調査)全体図

建物跡群 拡大図 (S=1/150)



- 縄文時代の遺構
- 古墳時代の遺構
- 鎌倉～江戸時代の遺構

5. 発見された遺構と遺物

縄文時代

縄文時代早期末～前期初頭(今から6000年くらい前)の住居跡と遺物包含層(ゴミ捨て場)を発見しました。

【竪穴住居跡】

丘陵南斜面で竪穴住居跡を8軒発見しました。竪穴住居跡は隅丸長方形を呈し、一辺3～5mほどの大きさです。壁際には柱穴が巡るものも多く、火を焚いた炉が確認されているものもあります。住居の床面や柱穴などから縄文土器や石器が出土しています。

【遺物包含層】

縄文土器や石器が出土しています。住居跡が見つかった箇所のおすぐ南側にあることから、当時の人たちが不要になったものを投げ捨てたり、使用した土器などが流れ込んだ場所であると推測されます。



↑ 住居跡3のようす (東から撮影)



↑ 住居跡3から出土した縄文土器のようす



↑ 参考：復元された住居跡 (まほろんにて撮影)



↑ 遺物包含層のようす (北から撮影)

古墳時代

【方形状の溝跡】

古墳時代前期(今から1700年くらい前)と思われる方形(四角)に巡る溝跡を3条発見しました。溝跡は1辺8～9mほどで、ところどころ溝が途切れているものもあります。溝跡1からは土師器の器台が出土しています。



↑ 方形状の溝跡1のようす (東から撮影)

用語解説

※遺構：住居などのような人々が生活をした跡のこと。

※土師器：古墳時代から平安時代に作られた素焼きの土器。

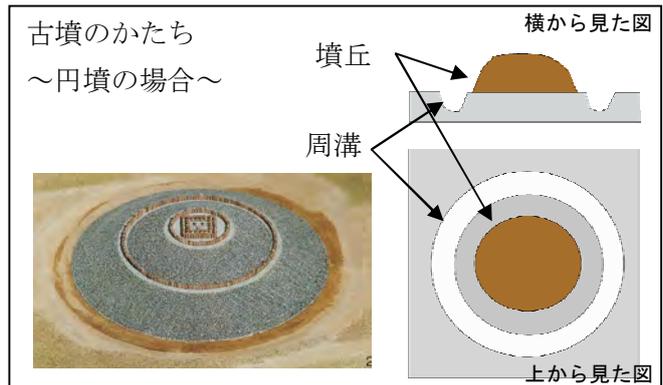
【古墳】

古墳時代中期（今から 1600 年くらい前）の古墳の周溝しゅうこうと思われる円形めぐに巡る溝跡みぞあとを発見しました。古墳の墳丘ふんきゅうと周溝しゅうこうの東半分は、後世の耕作などで失われてしまったと考えられます。周溝の規模から直径 25m ほどの円墳えんぶんがこの地に存在したと推測されます。周溝から、土師器（南小泉式か？）が出土しています。

これまで北経塚遺跡の周辺に古墳が存在することは知られていませんでした。今回の古墳の発見は、亘理郡の古墳時代を考える上で貴重な発見であると言えます。



↑ 古墳周溝のようす（東から撮影）



鎌倉時代～江戸時代

【掘立柱建物跡】

鎌倉時代～江戸時代と考えられる建物の柱跡が多数見つかっています。数時期にわたり、8棟以上の建物が立てられていたと思われます。

建物7は南北 6m × 東西 5m 以上あり、北側に庇ひさし、南側に張り出しがつく建物です。柱穴の深さが 1m ほどあるものもあります。



↑ 参考：建物跡のイメージ
こんな建物が建っていたのでしょうか？



↑ 建物7のようす（東から撮影）

【井戸跡】

調査区南側で井戸跡が 2 基見つかっています。井戸跡 1 は、直径 1m、深さ 3m 以上の素掘りのもので、中世陶器ちゅうせいとうきやかわらけ（素焼きの器）が出土しています。建物跡で生活した人たちが利用したものであると考えられます。



↓ 井戸1のようす（東から撮影）

6. まとめ

- ・今回の調査では、縄文時代早期末～前期初頭の住居跡・遺物包含層（ゴミ捨て場）、古墳時代前期の方形状の溝跡、古墳時代中期の古墳周溝、鎌倉時代～江戸時代の建物跡・井戸跡などを発見し、そこから縄文土器、石器、古墳時代の土師器、中世陶器、かわらけが出土しました。特に第1次調査で確認できなかった縄文時代早期末～前期初頭の住居跡と出土資料を得ることができたことや古墳の存在を確認できたことは、遺跡の性格を考える上で貴重な発見となりました。
- ・この他、奈良・平安時代の土師器・須恵器なども出土していますが、今回の調査範囲ではその時期の遺構を発見することができませんでした。

関 連 年 表

| | 年代 | 日本・世界の出来事 | 山元町の主な遺跡 |
|-------|--------|--|-----------------------|
| 旧石器時代 | | | 一ノ沢遺跡（中山） |
| 縄文時代 | 草創期 | 12000年前 | ・気候が温暖化、海水面が上昇する |
| | 早期 | 10000年前 | |
| | 前期 | 6000年前 | ・三内丸山遺跡（青森県）で大集落が営まれる |
| | 中期 | 5000年前 | |
| | 後期 | 4000年前 | ・黄河文明・エジプト文明・インダス文明 |
| | 晩期 | 3000年前 | |
| 弥生時代 | 2300年前 | ・日本に稲作が伝わる ・邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る（239年） | 上台遺跡（真庭） |
| 古墳時代 | 前期 | 西暦 300年 | ・近畿地方に前方後円墳がつくられはじめる |
| | 中期 | 400年 | |
| | 後期 | 500年 | ・仏教が伝わる（538年） |
| 飛鳥時代 | 600年 | ・大化の改新（645年） | 井戸沢横穴墓群（下郷） |
| 奈良時代 | 700年 | ・平城京 遷都（710年） ・多賀城がつくられる（724年） | 館の内遺跡（大平） 谷原遺跡（山寺） |
| 平安時代 | 800年 | ・平安京 遷都（794年） | 北名生東窯跡（合戦原） |
| 鎌倉時代 | 1200年 | ・源頼朝が鎌倉幕府を開く（1192年） | 愛宕山館跡（下郷） |
| 室町時代 | 1330年 | ・後醍醐天皇による建武の新政（1334年） | 北経塚遺跡 |
| 戦国時代 | 1460年 | ・応仁の乱（1467年） ・織田信長入京（1568年） ・豊臣秀吉全国統一（1590年） | |
| 江戸時代 | 1600年 | ・徳川家康、江戸幕府を開く（1603年） | 藁首城跡（下郷） |